



からしだね

2023年7月号
(594号)

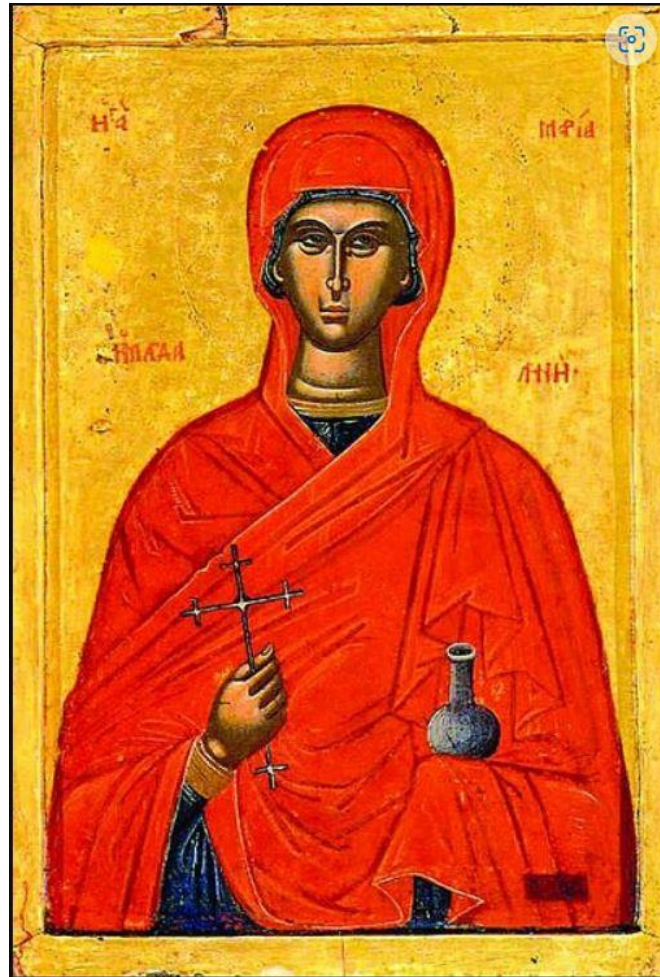
キリストの受難 カトリック池田教会

主任： 中村克徳司祭

住所： 〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL： 072-751-2400 FAX： 072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



本号の記事の主題など

人への批判と温かい眼差しがもたらすもの
中村克徳 C.P.

5月28日 大人の日曜学校だより

7月のガラスケースのみ言葉と解説

みんなの談話室

キリストの聖体の祭日に洗礼式
父と母が受洗して、神に感謝！

『葉隠』(1716年?)と細川ガラシャ
南アフリカへの「I love you カード」
づくりのお願い

宝塚黙想の家からのお知らせ

今月の表紙絵について

巻頭言

人への批判と温かい眼差しがもたらすもの

中村克徳 C.P.

私が志願者として福岡黙想の家で過ごしていた時、マテオ神父様から霊的に有益なアドバイスを幾つも頂戴しました。これは霊的指導の場で聞いたマテオ神父様の体験談です。

マテオ神父様が神学生の時、容易に解決できない悩み事に苦しんでいました。それは仲間の神学生を見て、その人の悪いところを心の中で批判することだったのです。この悪癖を取り去ってくださるよう祈り続けても一向に改善しないため、憂鬱な日々を過ごしていました。

そんなある日のことです。当時の修道院の規則では、二人一組で30分の散歩をすることが義務付けられていました。普段は沈黙で過ごすのが決まりでしたが、散歩のときは会話することが許可されていたのです。いつものように二人で散歩していると、一緒に歩いている仲間の神学生が唐突にこう言いました。「ねえ、マテオ。僕たちは誰に対しても寛大でなければならないよね!」。この言葉にマテオ神父様は衝撃を受けました。これまで自分が悩んでいたことの答えがそこにあったからです。あたかも彼の口を通して、神様が答えをくださったかのように聞こえたのでした。そしてその日を境に、マテオ神父様を悩ませていた、人を批判するという悪い癖は消え去っていったのです。

19世紀半ばのイギリスに、フレデリック・ウィリアム・フェイバーという司祭がいました。彼は英国国教会の司祭でしたが、カトリックに転会した司祭であるジョン・ヘンリー・ニューマン（後に枢機卿となり、聖人）を慕い、彼に倣ってカトリック教会の司祭となりました。彼は次のような教えを遺しています。

「人を批判する悪い癖は不治の病に近いものであって、その治療には終わりの見えない長いプロセスが必要です。誰かの悪を見抜く鋭い目に対して、わたしたちはもっと警戒しなければなりません。アダムが創造されて以来、皮肉が罪とならないことがどれほど少ないことでしょうか。

人間が持つ性格分析の能力は、冷淡な無慈悲さを生み出す恐ろしい可能性を秘めていると考えなければなりません。私たちは当初から、この力を持たないほうが良かったのです。なぜなら、そこから神の栄光を引き出すことは非常に難しいからです。この分析に没頭し続ける限り、私たちは自分に都合の良いことを言い続けるに違いありません。目が見えることは大きな恵みですが、時と場合によっては見えないほうが遥かに恵まれています。

わたしたちが聖なる人となるのは、比較的容易なことです。隣人たちの人柄をいつも温かい眼差しで、穏やかな優しさに包んで見つめれば良いのです。もちろん、悪に対して目をつぶってははいけません。しかしながら、私たちは悪を素早く見抜くよりも、もっと高貴な者へと、より真実な者へと成長することが求められているのです」。

私たちが誰に対しても寛大で、温かい眼差しで兄弟姉妹と接していくことができますように、神様の恵みを祈りましょう。

7月のガラスケースのみ言葉
敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい
マタイ5章44節

7月のみ言葉についての解説

中村克徳 神父

先日調べ物をしていて、これまで知らなかった、ある歴史的な出来事を知ることができました。心が痛むお話ですが、皆さんに分かち合いたいと思います。

御受難会が所有する福岡修道院の隣町には、新松原海岸と呼ばれる美しい海岸があります。その名の通り海岸沿いに植林された松林が立ち並び、その長さは総延長12キロにも及びます。現在では魚釣りや海水浴を楽しむ人だけでなく、サーフィン・スポットとしても知られていて、夏には多くの人々が訪れる観光地となっています。

江戸時代の初めにこの地を治めていたのは福岡藩主である黒田孝高（官兵衛）でした。彼は洗礼名をドン・シメオンとする切支丹大名の一人です。1587年に豊臣秀吉が発布した伴天連追放令の際には一時的に棄教したようですが、その後は領地内の教会を保護し、彼自身の葬儀もキリスト教の典礼様式に則ったものでした。

孝高の後を継いだのは息子の長政です。彼も洗礼を受けたキリスト教信者であり、当初は孝高からの遺言を重んじて、領内で働く神父たちと良い関係を保つよう心掛けていました。しかし、福岡の地を与えてくれた徳川家康に忠誠を誓うあまり、幕府の命令に従って1613年からキリスト信者を厳しく弾圧し始めたのです。1614年に家康がキリスト教禁止令（伴天連追放之文）を出すと迫害はさらに強まり、それは長政の死後も継承されて、1638年に島原の乱が起こると切支丹狩りは頂点に達しました。

その時に刑場となったのが、この新松原海岸です。長政はここに拷問処刑場を作り、5メートル四方の小屋を建てて100人以上を押し込めるなど、キリスト者に対して他に類を見ないほどの厳しい刑罰を科しました。その詳細はあまりにも惨いため、この場で述べることはできません。この刑場で殉教した人々は数千人にも及ぶと伝えられています。

福岡市内にもいくつか切支丹への拷問を行った刑場が残されていて、江戸時代の半ばには今村（現在の三井郡大刀洗町）の潜伏切支丹を除いて福岡の地からキリスト信者は根絶やしにされてしまったのです。

山上の説教（マタイ福音書5～7章）でイエス様は「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」と教えておられます。厳しい拷問を与える相手を、どのように愛して、その人のために祈ることができるでしょうか。

アトス山の聖シルアンは、次のように教えています。

「ある人があなたを侮辱し、不名誉をもたらし、あなたのものを奪い、教会を迫害するとき、主に向かってこう祈りなさい。『主よ、私たちは皆、あなたの被造物です。あなたのしもべを憐れみ、彼らの心を悔い改めに導いてください』と。このように実行するならば、あなたの靈魂に恵みがあることに気がつくはずですが、まず、敵を愛するように心を縛りなさい。主はあなたの善意を見て、すべてのことにおいてあなたを助け、道を示してくれるでしょう。しかし、自分の敵に悪意を抱く人は、自分の中に神の愛を持っておらず、神を知らないのです」。

新松原海岸の西端には、この地で殉教した人々のための慰霊碑が建立されているそうです。次に福岡を訪れた時はここを訪れて、彼らの永遠の安息を祈りたいと願っています。

キリストの聖体の主日（6月11日）に洗礼式

キリストの聖体の主日（6月11日）に近藤美都さんは中村神父の司式で受洗され、霊名はテレサ。お子さんであるS.M.さんは、お父様のパウロ近藤治さんも4月22日に病院で中村神父の司式によって受洗できたことにも感謝し、お二人の受洗への経過を記した文を寄稿されました。

神に感謝！

父と母に代わって 幼いイエスのテレーズ S.M.

父は大学でインドの事を研究していました。家庭でも、書齋に籠もって仕事をしていることが多く、とても厳格な人でした。妹が20代で精神的な病になり、父が身近で支えていました。また、母がうつ病で寝込みその後、脳梗塞で身体が不自由になってからは、母のことも献身的に介護していました。苦勞をする中で、父は愛の人が変わって行きました。私が池田教会で洗礼を受ける時も、教会に来てくれました。その後、実家で父と母と一緒に祈りをするようになりました。私がお祈りをするといつも「ありがとう」と言ってくれました。そして、ある時、昭和の歌の中で藤山一郎の「長崎の鐘」の歌を聴いた時に、涙を流す父の姿がありました。「ロザリオってなんや？」と尋ねてきたので、ロザリオを見せて一緒にロザリオを唱えました。

その後、脳の病気で入退院を繰り返していましたが、先日、4月22日誤嚥性の肺炎で救急搬送され、「今日明日が山です」とお医者さんから告げられました。私は、父の意思も確認し中村神父様に父の洗礼をお願いしました。そして、中村神父様より洗礼と病者の塗油を受けました。その後、奇跡的に父は、命を取り留めることができました。神に感謝！

母は、父より7歳年上で姉さん女房です。6月27日で91歳になります。50代の後半まで高校で勤めていました。妹のことと愛犬が亡くなったのがきっかけでうつ病になり、寝込むことが多くなりました。脳梗塞で倒れた後、リハビリを受けて杖をつきながら歩けるようになりました。その頃から少しずつ本来の明るい母の姿が見られるようになりました。90歳を過ぎてから、車椅子生活になりましたが、私が教会に誘うと「行きたい」と伝えてくれました。日曜日のミサに行くと、自分から手を合わせてお祈りをし、聖書の文を指でなぞると、真剣に読んでいる姿に驚かされました。父の洗礼をきっかけに中村神父様より勧めていただき、6月11日に母も洗礼を受けることができました。たくさんの方に祝福され、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。神に感謝！

宝塚黙想の家からのお知らせ

- 日帰り黙想会 10:00~15:30
7月11日(火) 指導: 稲葉 善章 神父
7月20日(木) 指導: 染野 治雄 神父
7月28日(金) 指導: 山内 十束 神父
- 一泊黙想会
7月11日(火) 17:00~12日(水) 15:30
指導: 稲葉 善章 神父
7月14日(金) 17:00~15日(土) 15:30
指導: 染野治雄 神父
- カトリック教会のカテキズム
7月12日(水) 10:00 ~ 12:00
7月26日(木) 10:00 ~ 12:00
指導: 染野 治雄 神父
- 聖地エルサレムを学ぶ
7月13日(木) 10:00~12:00
指導: 笹田六合豊 修道士
- ギリシャ語で味わう聖書のことば
7月4日(火) 10:00~12:00
指導: 稲葉喜章 神父
- 聖書の基本
7月05日(水) 10:00 ~ 12:00
7月19日(水) 10:00 ~ 12:00
指導: 山内 十束 神父

上記の各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。☎ 0797 (84) 3111

5月28日 大人の日曜学校だより
研修委員会

「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったようにわたしもあなた方を遣わす。」 (ヨハネ20章21節)

この日の福音の振り返りで、このイエス様のお言葉の通りイエスさまが私たちが平和があるようにと遣わして下さい、教会が誕生し、使徒たちはそこから世界に向かって布教をはじめ、今では世界中に教会があります。

なのに、世界を見渡せば恐ろしいニュースばかり。終わらない戦争、無慈悲な殺人など…。そのニュースは孤独や人の痛みを知らないところから起きています。

相手の平和を祈る気持ちがあればどれだけ世界の人が救われる事かイエス様の思いが世界中に繋がっていない! 悔しい気持ちで一杯になりました。暗いニュースが多い中で「あなたがたに平和があるように。」(ヨハネ20章19節~21節)とイエス様がこの短い福音で二度も唱えられておられることに強いメッセージを感じずにはられませんでした。

「だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。」(ヨハネ20章23節)

わかっているけれども出来ない!という参加者の方の心の叫びにみんな共感しました。人は皆弱いものですものね。そのような時私達はイエス様のお力を借りて自分の中でイエス様が働かれるようお祈りすることが大切だと思いました。

この季節、庭に咲く薔薇の花々も私たちの平和を祈って天使のように香り咲いてくれるように思えます。聖霊降臨の主日・そして教会の誕生日おめでとうございます。主の平和がありますように。

神に感謝。

みんなの談話室

『葉隠』（1716年？）と細川ガラシャ 直

『葉隠』（はがくれ）を読むときは、寝そべりながらパラパラ読む。紹介されるエピソードをふたつ、みつつほど目を通す。そのうち頭がなんだか重くなってくるから、そのまま昼寝する。椅子にきちんと腰かけて机やテーブルにおいて読むには重すぎてシンドイ。自衛隊市ヶ谷駐屯地で自決した三島由紀夫は『葉隠』を愛読したとか。わたしなんぞは一回半時間がいいところ。人命尊重、人権擁護を標榜し、ながらく福祉国家をめざしてきた、戦後日本が是とする価値観とは対極の世界が展開する。

『葉隠』にとって大事なものはサムライとしての名誉であり、お家と主君（藩主）への忠誠である。あくまで家あつての自分であり、いまとは逆。自らの「名誉」と家名にたいする「忠誠」の証しとしての潔い死をとげるのが立派とされる。その死は後世に語り継がれるべき誉れたかい死でなくてはならぬ。そのためなら、命など「屁」。このあたりが21世紀を生きる日本人にすれば、『葉隠』のかもしれない重苦しさや違和感の理由だろう。

たとえば細川ガラシャの最期。夫忠興への配慮から、関ヶ原直前、三成の命にしたがって西軍への人質となることを拒否したガラシャは死を選ぼうとする。ここで問題はカトリックが自殺を禁じていることだった、という。けっきょくガラシャは家老のひとりに命じて、みずからの命を絶たせる、という道を選んだらしい。カトリック教会の見方からするとガラシャはキリスト教信仰をまもろうとした烈女、ということか。カトリック信仰との葛藤を前面におしだしたガラシャ像であり、崇拜する人も教会にはいるのだろう。

ところが葉隠的価値観に基づいて語られる細川ガラシャは微妙に違う。彼女のキリスト教信仰にはいっさい触れていない。キリスト教が邪宗とされた時代だから、作品を語ったとされる山本常朝が理解していなかったのかもしれないが。あるのはただ、父光秀の謀反後、その娘ガラシャを受け入れてくれた夫忠興にたいするガラシャの感謝と、細川家の名誉を汚すまいとするガラシャのお家第一の価値観である。滅私奉公、儒教道徳の鏡。

お家第一主義の根底にあるのがサムライの名誉である。そのことを証明するエピソードが、自分自身ばかりか、ふたりの我が子までもガラシャが自ら手にかけてことである。妻子三人の自決を聞けば、夫忠興は憤り、三成への反発から家康への忠勤に励もう、そうすれば細川家は安泰だ、という論理である。「十歳の娘にこのことを申し聞かせ、引き寄せて刺し殺し、（つぎに）八歳の男子に向かい、「武士にうまれたしるしに腹を切れ」（『葉隠』下、435 [講談社学術文庫]）とガラシャは迫る。かしこまりましたとばかり、「脇差しを腹に突き立てた」長男をまえに、ながく我が子が苦しむよりはましだとばかり、その首をガラシャは打ち落としたという。真偽は分からないようでもあるが、やりきれない。

人は自分の価値観によってものを、ひとを見る。メガネに映るひとや世界は、そのひとがかけるメガネの色にそまる。メガネの色が決まるのは、そのひと自身の選択によるが、同時に時代の文化によっても変化する。ガラシャは堅固なカトリック信仰の鏡でもあれば、われわれの目から見て血なまぐさいサムライ文化の手本ともなっている。歴史

に名を残すような人物の姿は特色あるさまざまな文化によって玉虫色をおびてしまう、ということなのか。はたしてガラシャはふたりの子供を殺したのだろうか。詳しい方、どなたか教えてください。

南アフリカへの「I love you カード」づくりのお願い 久保昌子

みなさま、いかがお過ごしですか？コロナによる行動制限が緩和され、海外への行き来も徐々に再開されてきました。ついに、今年の夏休みに、久々に南アフリカのセント・フランシス・ケアセンターへの訪問が再開できそうです！

セント・フランシス・ケアセンターは、エイズの患者さんが適切なケアを受けながら過ごせるようにと設立され、30人ほどのエイズ孤児と最大40人程度の成人の患者さんが入院しているエイズホスピスです。皆さんのご協力をいただきながら、孤独感を抱える子どもたちへクリスマスカードを送り、いただいたご寄付を届けて子どもたちへの支援を続けてきました。例年は夏休み明けごろにクリスマスカードを作っていただき、郵送していたのですが、郵便事情が悪く、届かないで帰ってくる年もあります。

今年は私がじかに訪れることができますので、その時に直接子どもたちにカードを届けたいと思っています。時期的にクリスマスには早いので、南アフリカの子どもたちや人々への愛をこめた「I love you」のメッセージカードを作っていただけたらと思っています。

7月の間に作っていただき、私が持って行きたいと思っています。カードは手作りでも既製品でも構いませんので、ご自分の名前と「I love you」のメッセージを書いていただき、日本から思ってくれている人がいるということを伝えていただければと思っています。

出来上がったカードは社会活動委員会の回収ボックスに入れてください。7月30日までをお願いします。

南アフリカの人々への祈りを込め、1人でも多くの方にご協力いただきたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。



今月の表紙の絵について

十字架と没薬の壺を手にもつマグダラのマリアである。ギリシャのアトス山にある東方正教会のディオニシウ修道院を飾っているアイコンで、16世紀に描かれたと聞く。

7月22日（土）は聖マリア・マグダラの祝日。この日はヨハネの福音書20章1節～2節および11節～16節が読まれる。マグダラのマリアが復活したイエスを見て驚き、弟子たちに知らせた次第が書かれている。イエスが刑死した次の週の初め、まだ暗いうちに、マグダラのマリアはイエスの墓に行った。すると墓石が取りのけてあった。驚いたマリアはシモン・ペトロとイエスの愛弟子のところへ走って行って告げた。「主が墓から取り去られました。どこにおかれているのか、わたしたちにはわかりません」そののち、マグダラのマリアが墓の外で泣いていると、二人の天使が現れ、後ろにはイエスの姿が見えた。マグダラのマリアは最初、園丁だと思っていたが、イエスが「マリア」と呼びかけられると、瞬時にイエスだと悟った。急いで弟子たちのところへ行って「わたしは主を見ました」と知らせた。マグダラのマリアは主の復活の最初の証人であり、最初に主の復活を告げ知らせた人である。

ちなみに、ギリシャのアトス山地には正教会の修道院が20ほどもあり、修道士小屋も崖にへばりつくようにたくさん建っていて、修道士が祈りと労働の日々を送っている。そこはギリシャ国内でありながら、アトス自治修道士共和国として自治を認められている。

編集後記

わたし「ヨハネによる福音書20章19-22節について説教を書いてください」
chatGPT「ヨハネによる福音書20章19-22節は、イエス・キリストが死者の中からよみがえり、弟子たちに現れた出来事を描写しています。その時、弟子たちは恐れと喜びでいっぱいでした。では、この出来事が私たちに伝えるメッセージは何でしょうか。（後略）」

なかなか興味深い「説教」でしたが、やはり司祭（人）の説教とはどこか異なっており、違和感があるものでした。

パスカルやメンデルの例があるように、キリスト教は科学を否定するものではありませんが、現時点ではAIがいくら学習を重ねても、自らの経験を通じて得た「肉声」を持たなければ、心を打つ言葉にはならないのかも知れません。

パウロ